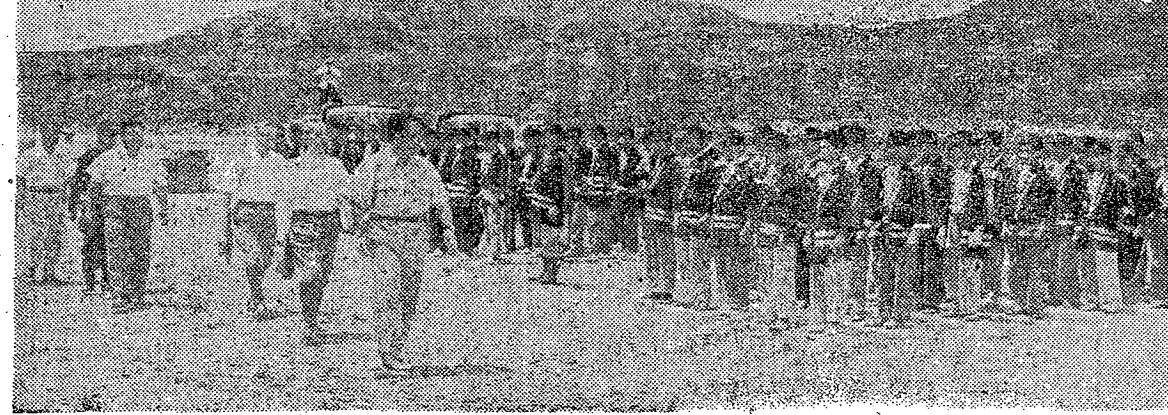
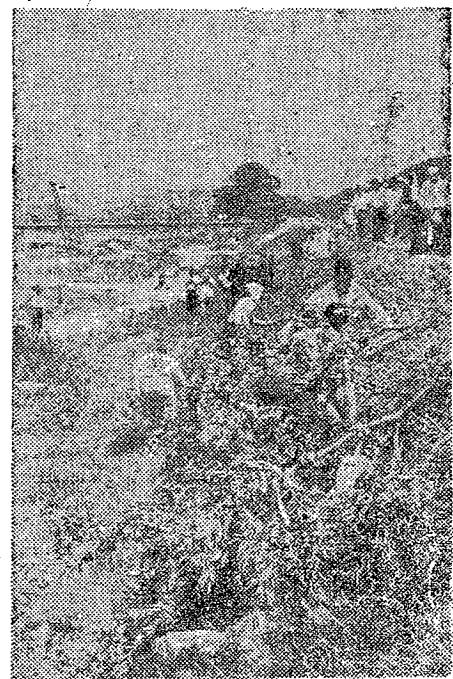


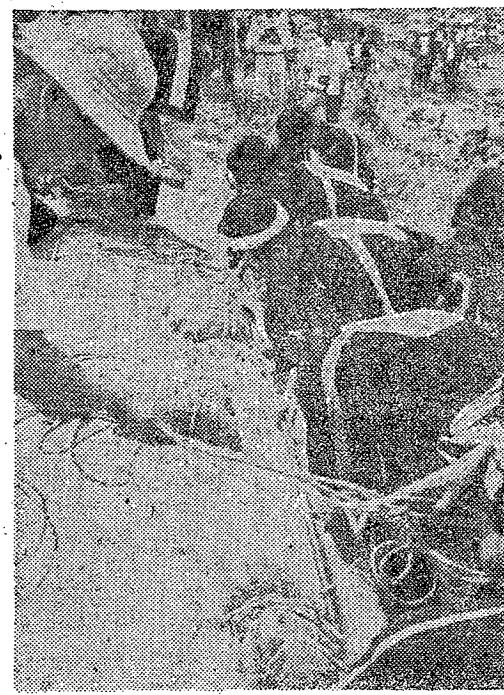
備えあれば憂なし



特に流れの急なところでは、木流しまとは竹流し工によって流水を緩和し、堤防表法が洗い流されるのを防ぐ。木はマツスギ、ナラ、ヤナギなどなるべく枝や葉の茂ったものがよく、竹の場合は三本をまとめてくる。



ムシロ彌工は堤防の表法(ひわ)一水のある方一の開闢と流水を防ぐ目的でおこなわれる。崩壊面の大きさも堤防の高さなどして敷設のムシロを下すのである。上下の端と縦目おもむろの中間に符をぬきつけ、下端に孔があり土俵をもつけて、これを中心にしてムシロを巻き、上端を下に向けてかまひいりと締めこむのでて繋がる。



下右の月輪工や同じような蓋段工などの方法をさらに効果的にするため、ブルドーザーで横土俵の補強をする。これで前記のような工法は完璧となり、この演習の圧巻でもあったが、どこでもできるというわけにいかないのが難。



洪水で落水した者とその連絡が絶えたときや、孤島に取り残された人を救出するときにはモバイルを使って救命索を発射し、これをもとに太いロープで連絡して、人を選んで救援物資を送ったり、有線電話端末を渡して連絡したりするほか、走られてくる人を救うことがある。眞面目に水難救助の表演

あの七・八水害から溝川を越えて七月二十日、やがての地有田川の流域で、本年度の水防演習がおこなわれた。地元の有田市水防団、興農團、土木関係者三百余名が参加し、参観者も堤防を白一色で埋めて、炎天下に汗にまみれてくじひびけた田舎の鼓譟に見入った。

この日、沿岸貯木部次長が演習監督となつて「前段からの暴雨で有田川はついに危険水位に達し、破堤のおそれが大きくなつたので備田に達している。

水防団員はただちに行動に移った」という想定で演習が開始。土俵いしんまからブルドーザーによる機械化工事による工法を実演、統じて興農團による水難救助演習と通じて水難救助訓練がおこなわれた。大水害を身をもつて体験した人々だけに、演習とはじめ真剣そのもの。所要時間も予定の半分という早さであった。なお、昨年中に水防団の活動について被災を蒙られた頃は、全国で四百五十億円に達している。



発行所
和歌山市小松原通1丁目
和歌山県
毎月1回1日印刷発行
価格1部2円50銭

豪雨時に水が漏れきて危
う。土俵を積み、土砂を入れ
て堅め、さゆに半唐用の
勾配と土俵を積み上げてか
ら、杭を打って補強する。



堤防の裏側へ水が噴き出しているようなとき、噴出口を中心にして土俵を積み上げ、水をためて水圧により漏水の勢を弱めるのがこの月輪工。土俵と土俵の間には土を詰め、充分踏み固めて水を漏らさないことが大切。



海南版

八月十日は漁調
委の選舉です
みんな捕つて
投票しましょ

好調な予約申込み

和佐村・今年もトップ切る

本年度産米の予約申込みは、全国的に好調な伸びが見えており、和佐村米穀課では、予約申込みが終了した七月二十日、早めに目標額が突破される見込みをうけた。予約申込みは、今年の産季は、七月十日

約束通りに予約申込みがある。同課課長によると、この予約申込みは、各農家が長期予約をうけたが、この予約申込みに対する対応は、石垣島一千戸あたりで、本年もかなりの作柄が予想され、予約期間中の目標額が突破される見込である。

田の概算金が前渡しされるので、手取金の不足による、裏作農産物の売り込みなどを抑制するため、つなぎ資金としてこの前

方、農家の経済が不安定するよう望むところ。

【写真は和佐村農地での産季予約申込み風景】

和歌山市へ編入

来月から西脇など五町村

報道のとおり六月議会で議決さ

れ、九月一日から施行することになつた。

これで海南郡内の町村数は加大

かねてから話題になり、推進されてきた西脇町、和佐村、安

原村、西山農村、東山東村の和

歌山市への編入合併は、別面

報道のとおり六月議会で議決さ

れ、九月一日から施行することになつた。

これで海南郡内の町村数は加大

かねてから話題になり、推進されてきた西脇町、和佐村、安

原村、西山農村、東山東村の和

歌山市への編入合併は、別面

報道のとおり六月議会で議決さ

れ、九月一日から施行することになつた。

これまでならすぐ警察へ

フキ取りに行ってマムシにかま

れ海南署の白バイによる血清輸送車が、海南保健所は巡回するマ

医師に接して、七月十五日には夜のうちに件のマムシが発生した。折角の豊江の中

言神奈川の警備についた

パトロールカーの出勤し、美里

発達をおびたがるが、この間は特に

八月十九日はマムシの繁殖期

になるので、この期間は特に

海南保健所が警戒している。

血を吸うこと。②マムシの血清を保有しているのは、管内では海南保健所だけであ

る。

天皇賜杯軟式野球大会開く
高松市を迎えして

運動場を拡張
東洋海南チームが出場する。

一つの祭典で、海南市からはじま

る大会は、各都道府県予選で

優勝した五十チームが参加する

野球大会は、八月十一日から六日

万円で運動場の拡張工事を進めていたが、去る六月末に完成を

成、およそちはだすよりござ

成、それ開催される。

新運動場は延長九百三十坪とい

うことで、七月一日には完成を

記念してM.T.A.の野球大会が

飛躍している。そのほか

優れたものである。

参加している県は、比較的山

村の農業が多く、海水浴や舟遊

が、天皇賜杯で優勝を目指す

スポーツマンシップと軟式球界が、天皇賜杯で優勝を目指す

が、海南保健所が運営するスボ

ル大会は、海南市を主場とする

今年も初島海岸で子供クラブの臨海施設

開設される。

これは、臨海施設の利用を通じて

子どもと自主性と社会性を養

む機会をもたらすといい、

体位の向上をはかるなどが主な

目的で、過去に回にわたり実

施した経験をさらに検討して準

備されたものである。

参考している県は、比較的山

村の農業が多く、海水浴や舟遊

が、海南保健所が運営するスボ

ル大会は、海南市を主場とする

7月20日～8月末日

午じまり 身じまり 心じまり

夏期防犯運動月間

はかりて移動する。

はかりて運営する。

那賀版

摘要
◆よいかんやつぱり
◆摘要して玉よし
味よし情勢よし

急ぐ最後の仕上げ

未復旧道

全線開通へあと一步

去る昭和二十八年の二度の大水で、森林の動脈ともいべき林道が十八路線、総額八千円に上る大損害を受けた。その後關係者も地元民の復旧への意欲が集結し、三年後の現在ではその大半は立派に復旧工事が完成、残った路線も来年三月末には開通する見込みにな

被災の程度が大きかった三路線が残っていたが、粉河町の墳垣林道の第一期工事は同町森林組合によって工費約二千

万円で既に完成、引続いて第二期工事も工費約二千五百万円の予定で来年八月末に完成する見通しがいい。

河町墳垣林道の一部

災害に備えて
無線機を購入

(粉河町)

風水害の季節が目前にひかえ、被害を最少限度に食い止めようとする工夫しているが、粉河町ではこのほど約四十万円(うち原資補助八万円)を投じて無線機を購入、ジープに取付けた。

この無線取扱い士は、災害発生時に現場に急行し、情況を本部に報告するとともに、応援の救護などの連絡に当り、被害を最小限度に食いとどめようとして最後の仕上げを急いでおり、全線が開通して眠っている。

河町墳垣林道の一部

森林開発公団 発足



八月十日は漁調
委の選舉です
みんな揃って
投票しましょよ

いよいよ軌道へ

熊野川流域の森林開発

去る七月十六日森林開発公団が発足し、理事長に石坂繁氏、理事に大谷一郎氏と榎木治郎氏が就任した。監事は平田左武郎氏が就任した。また東京都麻布市兵衛町林野分野にあつた本部は奈良市に、支所は徳島県にそれぞれ移設される。新宿市には分所が設けられる。

この公団は、アメリカの森林整備の實入に伴う員送りによるものである。

十一万九千町歩と、徳島県の

鈴山付近の森林地帯を開発

する。

一方、熊野川流域の森林資源開発事業計画は、軌道に乗り、林道

四路線

一万五千九百米の開拓測量も終り、自下盤計画を立て

る。

大塔川、鶴川、和田川、奴田の

水

と

地方事務所民生課では日本

和歌山部の五箇主事を迎えて

去る七月三日から五日まで古

座小学校講堂と七月十日から

那智勝浦町の浜の

よめいである。

一方、熊野川流域の森林資源開

発事業計画は、軌道に乗り、林道

四路線

一万五千九百米の開拓測量も終り、自下盤計画を立て

る。

大塔川、鶴川、和田川、奴田の

水

と

地方事務所民生課では日本

和歌山部の五箇主事を迎えて

去る七月三日から五日まで古

座小学校講堂と七月十日から

那智勝浦町の浜の

よめいである。

必ず保護者同伴で

水上安全講習会ひらく

今年こそ水の犠牲者をなくそう

と

地方事務所民生課では日本

和歌山部の五箇主事を迎えて

去る七月三日から五日まで古

座小学校講堂と七月十日から

那智勝浦町の浜の

よめいである。

一方、熊野川流域の森林資源開

発事業計画は、軌道に乗り、林道

四路線

一万五千九百米の開拓測量も終り、自下盤計画を立て

る。

大塔川、鶴川、和田川、奴田の

水

と

地方事務所民生課では日本

和歌山部の五箇主事を迎えて

去る七月三日から五日まで古

座小学校講堂と七月十日から

那智勝浦町の浜の

よめいである。

一方、熊野川流域の森林資源開

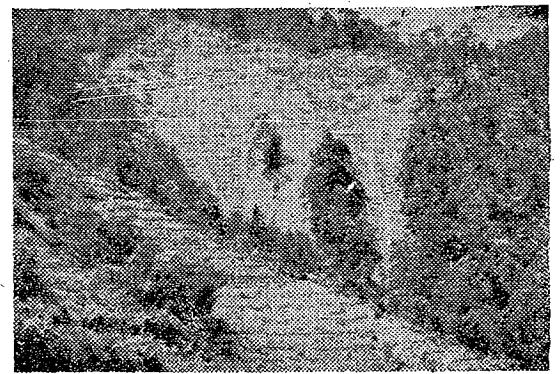
発事業計画は、軌道に乗り、林道

四路線

一万五千九百米の開拓測量も終り、自下盤計画を立て

る。

完全復旧へ今一步 一四村の山腹崩かい地



牛舎は防蟻防蚊の
工夫とともに通風が必要だ。
便(便所)で、寒さや暑さに適応する
に弱い。よく夏至三十度
寒暖代謝をよくして、乳量を増
やるものだ。

以上の気温になると暑さで、
加減するから牛が呼吸のし
し、産乳量が減るか
ら畜産保健所では次
の注意を要んでいる

乳牛・夏の飼い方

などおこしやす
ひかる。

なお食欲不振、食滞
などおこしやす
ひかる。

ひかる。